

したブミナズミ...
た。小銅管も前回の調査の延長部が出土、水時計とは別の第二の施設があったと推定される。奈良国立文化財研究所

同遺跡は甘樫丘東方約百...
跡が見つかった。銅管は新たに六・五センチ分が出土した。内径は九センチ。管の上を木の粉や繊維をウルシで

東京アスカルト

関東大震災を機に昭和初期、ドイツ風の防災公園として誕生し、太平洋戦争後は荒れ果てたままになっていた東京・文京区立元町公園(文京区本郷一ノ丁)がこのほど五十余年ぶりに復元され、区民の憩いの場として息を吹き返した。

としては超モダンなカスケード(水の流れる階段)も設置されていた。ところが、第二次大戦で公園の門扉やさくなどの金属部分は供出され、かつての美しさは失われ、戦後、手をつけられないまま荒れ放題となっていた。

四千万円を投じて完成させた。東京市が造った震災復興計画公園は当時五十二万所あったが、今では近代的に改装されたものがほとんどで、昔の姿のまま復元されたのはこれが初めて。

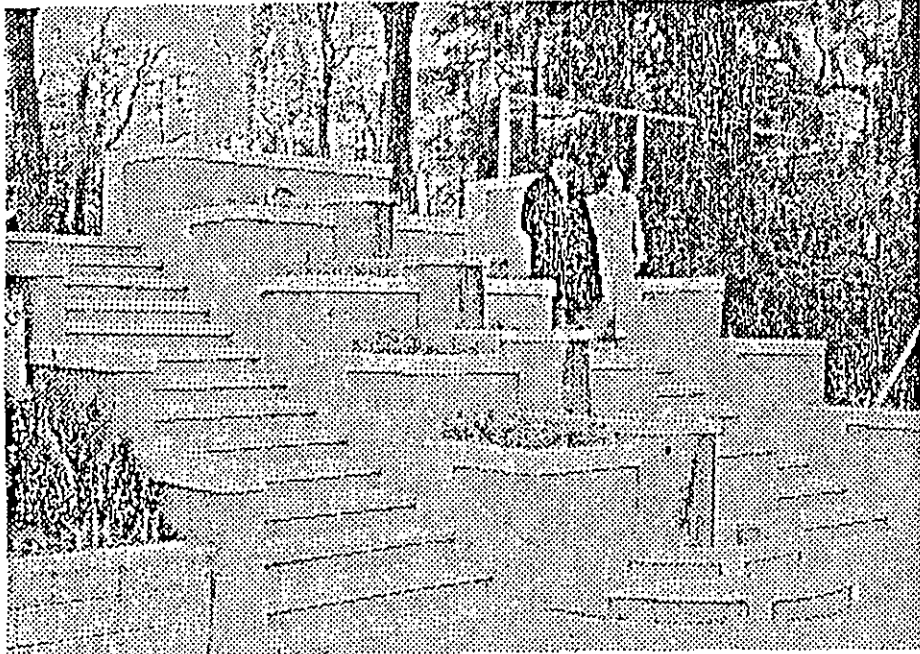
文京区公園緑地課の中村和郎工事係長は「元町公園は近代公園史上、貴重な文化遺産であり、本郷の歴史を見つけてきた生き証人なんです」と力説している。復元工事は、文京区が五十七年十二月から総工費約

昭和初期の防災公園 区民憩いの場に復元

した。

同公園は昭和五年、当時の東京市が「震災復興計画」に基づいて造ったものの一つ。公園には小学校が隣接し、児童の学習・運動の場として、また、災害時の避難場所として使用された。

また、ドイツ風の造園技法が採り入れられ、公園内が「広場」「児童広場」「休憩施設」と機能別に区画され、当時



昔の姿のまま復元された元町公園のカスケード